

Lunar News

—Vol.1—
Innovation and dedication

BRINGING YOU THE LATEST NEWS FROM THE WORLD OF BONE DENSITOMETRY



PRODIGY

ユーザーレポート かみむらクリニック

かみむらクリニック

長野県松本市寿豊丘一本松595-17

院長 上村 幹男



信州、松本駅から南へ5キロほど、住宅街からはやや離れた閑静な中に今回訪問した「かみむらクリニック」があります。2005年3月に開業した新しいクリニック。開業当初からGE製全身用骨密度測定装置「PRODIGY」を導入され、骨粗鬆症診療に力をいれられて来ました。院長である上村幹男先生にお話を伺いました。

～骨折リスクを見逃さない～

Q1

はじめにクリニックの紹介をお願いします。

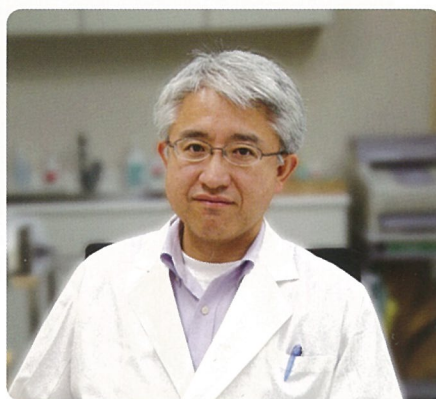
平成17年に松本市内で開業しました。整形外科クリニックとして一般的な整形疾患を扱っていますが、骨粗鬆症や脊椎脊髄疾患を専門として診療を行なっています。現在、骨密度検査は一日平均7～8件くらい行っています。

Q2

DXA装置導入をされた理由は何でしょうか？

開業の大きな目的が、もともと骨粗鬆症の診療と骨粗鬆症の臨床研究でした。このため骨粗鬆症を専門的に行なうにはDXA

は必要不可欠でした。また、経営面でも骨粗鬆症に本格的に取り組んでいる医療機関はなく、DXAを導入しても経営面でも問題はないと判断いたしました。



上村幹男院長

Q3

なぜGE製のDXA装置「PRODIGY」を選ばれたのですか？

勤務医時代には腰椎で診断していました。次のテーマとしてHipが重要になるのではないかと考えて片側のHipの測定を開始し、その印象で今後、Hipが重要になると確信していました（データはすでに解

析して専門誌に投稿中です）。

独立開業を考えていた際に出会ったのが、GEのPRODIGYです。PRODIGYの特徴はナローファンビームとOneScan機能です。OneScanでは腰椎と両大腿骨近位部の3ヶ所を患者さんを動かすことなく、数分で測定可能です。この機能があったからGEを選択しました。導入の際に他社と比較検討することはありませんでした。当時はHipに注目していましたが、次に重要になるのは左右の測定であると考えていました（実際に左右差に関しては決して少なくないことを報告しています）。PRODIGY以外の機種では最新の装置であっても腰椎、大腿骨、しかも大腿骨両側の測定となると実際には大変な手間と時間がかかります。大きな病院ですら対応が難しいと思います。

その後、私がこの装置を購入した頃には国際学会から腰椎とHipの両側を測定すべきであると報告がありました。更に「骨粗鬆症予防と治療ガイドライン（2006年版）」が公表され、腰椎と大腿骨の両方を測定することが推奨されています。



Q4

そのPRODIGYの使い勝手はいかが
でしょうか？

私のクリニックには放射線技師がいませんので測定は私が行っています。検査は先ほどお話しした通り、腰椎と両大腿骨の3部位がルーチンです。しかし、3ヶ所の測定でも日々の診察にほとんど支障はありません。まさにOneScanのおかげと言えます。測定に必要な時間は、概ね5分以内、実際には数分といったところでしょうか。



骨密度検査室にて、一日7~8件の検査を全て院長自ら行っている。

Q5

現在日本ではまだまだ腰椎のみの検査が主流になっています。先生はルーチンで両大腿骨を測定されていますが、大腿骨測定の有意性についてお話しいただけますか。

そもそもなぜ骨密度測定を行うのかということなのですが、短期的には骨折予防が目的なわけです。しばしば測定される前腕の骨折では死亡リスクは上昇しません。しかし、大腿骨頸部骨折や脊椎骨折は寝たきりの原因となり、相対的な死亡

リスクは非常に高くなることが報告されています。大腿骨頸部骨折のリスクを予測するには、直接大腿骨頸部を測定することが最も重要です。当院の患者さんにも見られますが、腰椎のBMD値が正常範囲でも大腿骨頸部のBMD値が低いというケースは意外と多いものです。改訂後のガイドラインにも大腿骨の測定は強く推奨されています。当院での実績からも前任の病院でのデータでも腰椎のみの測定では骨粗鬆症を見逃す症例が多いことは明らかです。

現在、ガイドラインで両方測定して診断することが推奨されている以上、Hipの測定をしないことは考えられません。また、腰椎の変性を見てHipを測定する患者さんを選択することは我々のデータからも不可能です。

多くの骨脆弱性骨折は骨量低下の領域で発生しています。Hipを測定してより多くの患者さんに治療を行なうことは患者さんに大きなメリットがあります。

Q6

最後にGEヘルスケア・ジャパンに望まれることがあればお聞かせください。

松本にサービスマンの方も常駐されているのでメンテナンスなどの面では特に不満はありません。強いて言うならば、GEから大腿骨測定の必要性をもっと強く訴えて欲しいですね。骨密度測定は決してメジャーな分野ではないので、メーカーによる最新情報の提供や新しいアプリケーションの開発は非常に重要なことになると思います。骨粗鬆症治療は寝たきり防止や死亡率の低下に繋がるのだということを医療関係者だけでなく一般にももっと喧伝して欲しいと思います。

ありがとうございました。

Lunar News

